

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	デザイン		単位	3単位	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	2年	8.9	組	
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）						
使用副教材							

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

- ①色彩計画の学習
- ②画面構成の学習
- ③情報を調査、収集して整理する学習。情報の視覚的効果を高めて伝達する学習
- ④デザインの使用目的を明確に意識し、コンセプトを持った表現

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

「コンクール作品」（5月連休課題・夏季休業課題）

「青森県南地区観光ポスター制作」青森県南地区と岩手県北の観光名所、祭り、名産物等を取材し、取材した資料を基にポスターをデザインする課題。取材する力、情報の整理能力、視覚伝達能力を養う。

「平面構成」情報を分かりやすく伝達するための効果や対比を習得し、構成力、色彩を学習する。大学受験を視野に精度の高い作品を目指す。

■後期からデザイン系と絵画系（油彩、彫刻、日本画等）に分かれ、より専門性の高い課題を実習する
 「CIデザイン」（選択課題）架空の企業、団体を想定し、コーポレート・アイデンティティを考える。
 そのCIコンセプトを基に、コーポレートカラー、ロゴデザイン、シンボルマークをデザインする。
 デザインしたロゴやマークを利用した商品、パッケージ、包装紙などに展開する例も提示させる

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する

(2) 家庭

夏期休業と冬期休業に出題されるコンクールに向けた課題の制作

3 この科目の評価方法について

評価方法：何を使って評価するのか

完成した作品によって評価する。

技術的、創造的に優れた作品を評価するほか、完成するまでの過程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

0 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度

(2) 思考・判断

課題を理解し、目的を持って思考する力、アイデア

(3) 技能・表現

構成力、色彩感覚、表現力、描写力

(4) 知識・理解

色彩論、図学製図を応用した制作、CG技術の向上

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	5	<p>■「ポスターの制作」</p>  	<p>■「コンクール出品ポスターの制作」 (5月連休課題・夏期休業課題) 各コンクールに向けたポスターを制作する。 画材、用紙サイズは選択したコンクールの要綱に沿う。 ◇評価の観点 目的を効果的に伝達するデザインを学習する。</p>	●	●	●	●	
1	5	<p>■「県南観光ポスター」</p>  	<p>■「県南地区観光ポスター」(26時間) 課題：テーマは県南地区の観光ポスター。県南地区と種市、久慈等岩手県北の観光名所、祭り、名産物、話題等を紹介し、観光客を引きつけるポスターをデザインする。優秀作品は、八戸駅ユートリー連絡通路に展示される。</p> <p>◇評価の観点 1) 内容がしっかりと伝達されて、目的を果たしているデザインか(分かりやすく伝える、インパクトを与えてアピールする) 2) 構成力が優れているか(図、文字等の配置、構図を十分に検討する) 3) アイデアが斬新であるか(既存のものに類似せず、新鮮である) 4) 色彩感覚が優れているか(色彩論を応用し、明度、色相、彩度等を考えて計画する) ◇A2サイズ縦で制作(420mm×594mm) 画像解像度200Pixel/inch ◇キャッチコピーを考えて入れること。(コピーのセンスも重要)※写真に文字を入れただけの、ありきたりの作品にならないように注意。</p> <p>◇評価の観点 ①内容 1) 情報収集力：細部に至るまで正確に情報を収集できたか 関係資料の収集なども充実している 2) 分析力：取材した資料を分析し、的確に把握している 3) 伝達力：分かりやすく、簡潔な表現でまとめられている</p> <p>②デザイン 1) レイアウトが読みやすく、美しい 2) 目的と内容に合ったデザインが成されている 3) 写真や見出しの配置、フォントの選定が適切である 4) 色彩計画が良い 5) 興味を引きつける工夫がある</p>	●	●	●	●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
2	10	<p>■「平面構成」</p>  	<p>■「イメージ平面構成」(17時間) 図形やモチーフから受ける感情や感覚を色と形で伝達する。ビジュアルコミュニケーションの基礎的な部分を学ぶ。 ◇評価の観点 テーマに対してアプローチが正しい判断であるか。効果や対比が的確であるか。丁寧な仕事運びが為されているかどうか。</p>	●	●	●	●	
3	1	<p>■専攻別課題 進級制作「C I デザイン」</p> <p>道徳</p>  	<p>■専攻別課題 進級制作「C I デザイン」(61時間) B2サイズ、縦、CG</p> <p>C I = コーポレート アイデンティティ 会社の個性・目標の明確化と統一を図り、社内外にこれを印象づけるための組織的活動。デザインという視覚的要素の他にも、企業理念や企業行動などあらゆる面を含めた企業イメージの統一を図り、他社との明確な差別化をしていく企業活動。</p> <p>架空の企業、団体を想定し、そのCIコンセプトを基に、コーポレートカラー、ロゴデザイン、シンボルマークをデザインする。デザインしたロゴやマークを利用した商品、パッケージ、包装紙などに展開する例も提示させる。 (作例：食品会社、玩具会社、家具会社など)</p> <p>完成後にデザインのプレゼンテーションを行う。</p> <p>道徳教育を実施</p>					

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	絵画	単位	3単位	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	2年	8.9組	
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）					
使用副教材						

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

- ①画材、素材に対する追究
(油彩、アクリル絵具、透明水彩等、各画材の組成と特性を知り、基本的な表現技法を学ぶ)
- ②色彩、パルールの追究（デッサンで実習した表現を色彩に置き換えた制作）
- ③空間表現の追究
- ④絵画による自己表現の追究

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

「校外スケッチ実習」1年次の経験を生かして更に完成度の高い作品を目指す。
「静物油彩・着色」床面、モチーフ同士の関係の理解。質感の描写。マチエールの研究。背景も含む画面構成。空間表現。
「油彩自由制作」作品を作り上げる制作過程を学ぶ。（テーマの設定、取材、エスキース）自己表現としての絵画の追求。
■後期からデザイン系と絵画系（油彩、彫刻、日本画等）に分かれ、より専門性の高い課題を実習する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

- (1) 学校
主に授業時間内で実習し、放課後用、課外時間も有効に使って学習する。
スケッチは美術コースの行事、「校外スケッチ実習」で2日間、野外に出かけて制作する。
- (2) 家庭
無し

3 この科目の評価方法について

評価方法：何を使って評価するのか

完成した作品によって評価する。
技術的、創造的に優れた作品を評価するほか、完成するまでの過程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。

評価における定期考査の割合

0 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

- (1) 関心・意欲・態度
課題に取り組む意欲、態度
- (2) 思考・判断
画面全体を構成する総合判断力、イメージを作る創造力
- (3) 技能・表現
構成力、色彩感覚、表現力、描写力
- (4) 知識・理解
透明水彩、油彩、アクリル絵具等、画材知識の理解度

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	5	■「校外スケッチ実習」   	■「校外スケッチ実習」 （コース行事約8時間） F8画用紙パネル水張り、透明水彩 2日間で風景画を制作する パースペクティブの理解 透明水彩によるスケッチ技法の習得	●	●	●	●	
2	12	■「静物 油彩」  	■「静物 油彩」 （30時間） セットモチーフ5セット（1セット8～9人・囲んで描く）F15キャンバス・アクリルと油彩を併用 下地を生かした描写を行う *下地作りのポイント ・細かい形にとらわれすぎず大きく描く ・空間を意識する ・後に塗る固有色を生かすための色を置く ・積極的にマチエールを作ってみる ・下地で絵になっている感じをつかむ 積極的に絵具で描写し量感を出す	●	●	●	●	
3	1	■専攻別課題 進級制作「油彩自由制作」 	■専攻別課題 進級制作「油彩自由制作」 （61時間） F30～50キャンバスに油彩 観察をもとにした描写的表現を基本とした自由制作 自由制作の制作過程を学ぶ スケッチ、資料の収集 エスキース 本描き 自己表現としての絵画作品の制作	●	●	●	●	

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	日本画		単位	1単位	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	2年	8.9	組	
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）						
使用副教材							

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

<p>学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか</p> <p>①膠・胡粉・岩絵具・顔料・墨の特性と用具の使い方など、伝統的な専門技法の学習 ②日本画の制作工程を一通り実習し、来年度へ向けた基礎実習とする ③綿密な観察による描写の実習 ④ 日本画特有の空間の追究</p>
<p>学習内容：この科目で学習する大まかな内容</p> <p>専門的知識と経験が必要な日本画は、約1ヶ月の集中授業の形式で学習し、専門の講師が指導にあたる。2年次では、1年次に実習した顔彩による細密描写を踏まえ、全て岩絵具を使用して制作する。岩絵具の基本的な使い方と、各種描法の手順を学ぶ。描法は、墨描きで進める方法と、画面に地塗りを施して描く方法、揉み紙をする方法の3種類から選択して制作する。モチーフは「花」。背景とモチーフの空間関係に留意して描く。</p>
<p>学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか</p> <p>(1)学校 主に授業時間内で実習し、放課後等課外時間も有効に使って集中した制作を行う。放課後の実習時間は各学年を曜日で振り分けてアトリエを使用する。</p> <p>(2)家庭 無し</p>

3 この科目の評価方法について

<p>評価方法：何を使って評価するのか</p> <p>完成した作品によって評価する。 技術的、創造的に優れた作品を評価するほか、完成するまでの過程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力度、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。</p>
<p>評価における定期考査の割合</p> <p>0 %</p>

4 この科目の評価の観点について

<p>評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか</p> <p>(1) 関心・意欲・態度 課題に取り組む意欲、態度</p> <p>(2) 思考・判断 画面全体を構成する総合的判断力</p> <p>(3) 技能・表現 デッサン力、色彩感覚、表現力</p> <p>(4) 知識・理解 画材の知識と理解</p>

1 この科目の構成について

教科	芸術科	科目	美術Ⅱ	単位	3単位	単位
対象コース	美術コース	コース	対象クラス	2年	8.9組	
使用教科書	高校生の美術2（日本文教出版）					
使用副教材	カラー版西洋美術史／カラー版日本美術史					

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標：この科目を学習して何を身につけてほしいのか

2年生美術Ⅱでは、①デッサン、②西洋美術史、日本美術史、③彫塑という3つの領域で学習する。

①デッサン：1年次に学習した物の観察の仕方、画材の使い方、基本的な形態の描写を踏まえて、より難易度の高いモチーフを描く。また空間表現や、物と物との関係に留意した制作を目指す。

②美術史：日本美術史、西洋美術史を学習、基本的知識の学習と、鑑賞眼を養い、各時代、地域の美術を理解する。

③彫塑：年間1回実習する。全方向からのデッサン力を養い、形の構造を理解する

学習内容：この科目で学習する大まかな内容

①デッサン：モチーフ個々の描写から発展して、モチーフ同士の関係、床面との関係を観察し、空間を意識する。物の構造的な把握。

②美術史：西洋美術史、日本美術史の流れを理解し、各時代、地域の特徴を知る。

③彫塑：「首像」をテーマに、彫塑用粘土を使って制作する。

学習方法：この科目を学校と家庭でどのように学習すればよいのか

(1) 学校

デッサンと彫塑は主に授業時間内で実習し、放課後等、課外時間も有効に使って学習する。日本美術史、西洋美術史は、授業内で小テストを実施する。

(2) 家庭

日本美術史、西洋美術史は、自宅での予習、復習を確実にし、知識の定着を目指す。

3 この科目の評価方法について

評価方法：何を使って評価するのか

①デッサン、③彫塑は主に完成作品で評価する。技能的、創造的に優れた作品を評価するほか、完成するまでの過程、取り組みの姿勢を見る。各自の力量に合わせた努力後、熱心さ等を加味し、平常点として評価に加える。1. 2回考査はデッサンの実技試験。

②日本美術史、西洋美術史は、主に定期考査で評価する。考査は授業内容から出題される確認テストで、その得点によって理解の度合いを計る。また、授業中の態度、課題提出状況等を平常点として加える。

評価における定期考査の割合

40 %

4 この科目の評価の観点について

評価の観点：この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか

(1) 関心・意欲・態度

課題に取り組む意欲、態度

(2) 思考・判断

デッサンでの総合判断力、色彩論・図法・美術史の知識を応用する力

(3) 技能・表現

デッサン力、色彩感覚、表現力

(4) 知識・理解

日本美術史、西洋美術史の基礎知識の習得と理解

5 この科目の学習計画について

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
1	4 ～ 5	■「静物デッサン」	■「静物デッサン 白・黒モチーフ」 (1課題17時間・2課題で34時間) B3画用紙に鉛筆 セットモチーフ5セット ◇白いモチーフと黒いモチーフを交互描く。1課題約14時間。合計約34時間。 トーンの幅を広げる・空間を意識する	●	●	●	●	
1	5	■「第1回考査静物デッサン」	■「第1回考査・静物デッサン」 (2時間) 配布モチーフ3点点 B3画用紙に鉛筆デッサン 2, 3年で共通の課題で実施	●	●	●	●	
1	6 ～ 7	■「第2回考査・静物デッサン」	■「第2回考査・静物デッサン」 (2時間) B3画用紙 配布モチーフ 2, 3年で共通の課題で実施	●	●	●	●	
2	9	■「第3回考査・デッサンコンクール」	■「第3回考査・デッサンコンクール」 (2時間) A3画用紙 物を持つ手のデッサン 全学年で共通の課題で実施	●	●	●	●	
2	10	■「彫塑・石膏像模刻」 	■「彫塑・石膏像模刻」(30時間) 彫塑用粘土10キロ使用 石膏像(面)を模刻 立体的な把握力、デッサン力の強化	●	●	●	●	
2	11	■「日本美術史」 	■「日本美術史」(7時間) 古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉 室町・桃山・江戸・近代・現代における 絵画、彫刻、建築、工芸の歴史 カラー版 日本美術史(美術出版社)使用 道德教育を実施	●	●	●	●	
2	11	■「第4回考査・日本美術史筆記試験」 	■「第4回考査・日本美術史筆記試験」 (1時間) 11月まで学習した日本美術史の理解度を 確認する筆記テスト	●	●	●	●	

年間学習計画：この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか				重視する評価の観点				CHECK
学期	月	学習の項目	学習の内容	関	思	技	知	○△×
2	12	■「石膏デッサン」	■「石膏デッサン」(20時間) 木炭紙大画用紙に鉛筆 または木炭紙に木炭 ブルータス・マルス・ヘルメス・ガッタメラータ	●	●	●	●	
2	12 ～ 1	■「人物デッサン」	■「人物デッサン」(18時間) 木炭紙大画用紙に鉛筆 モデル2名 座りポーズ、服装はTシャツと短パン	●	●	●	●	
3	1	■「西洋美術史」  	■「西洋美術史」(10時間) 原始・古代オリエント・ギリシア・ローマ・中世・ルネサンス・ バロック・ロココ・ 近代・現代における絵画、彫刻、建築、工芸の歴史 カラー版 西洋美術史(美術出版社)	●	●	●	●	
3	2	■「第5回考査 西洋美術史筆記試験」 	■「第5回考査 西洋美術史筆記試験」(1時間) 西洋美術史の理解度を確認するテスト	●	●	●	●	